

気象学者 増田善信
信念に生きた101年

小山美砂 著

昨年6月に101歳で死去した増田氏から聞き取りを続けたジャーナリストの執筆による「自叙伝」



です。京都の農村に生まれた軍国少年。気象台で働く戦時中、1941年12月8日の開戦と同時に天気予報が新聞やラジオで

発表されなくなる事態も目の当たりにします。痛苦の体験から戦後は気象研究に挑み続け、退職後は原爆投下直後に広島に降った「黒い雨」の実相を調べ「黒い雨」訴訟の原告勝訴に貢献しました。真実を追い求めた人生が人柄とともに伝わります。(本の泉社・2000円)

2026.1.18 はんぶん赤渡